

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">古文書学実習Ⅱ</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">文学部文財2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">山中 浩之</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">古文書の読解と整理</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>歴史は1回しか起こらない。ほとんどは人々の記憶の中か、忘却のかなたへと消えていく。残される史料はごくわずかある。だから史料はいかなるものも貴重である。しかし史料はそのままでは紙片でしかない。それを1片1片読み解き、それらが相互につながりを持ち出したとき、紙片は意味ある史料として立ち現れてくる。そうして人々がそのとき、その場でどう生きようとしていたかが見えてくるとき、歴史が古文書を通して浮上してきたといえるだろう。</p> <p>古文書の読解と、古文書を扱い整理する技法の修得を旨とする。</p> <p>なお古文書実習の受講者は古文書学をすでに履修した者を原則とする。</p>		
<p>評価方法</p> <p style="text-align: center;">平常点を重視し、試験・レポートを加えて総合的に評価</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">くずし字解読辞典</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">東京堂</p>
<p>参考書</p> <p>『概説古文書学 近世篇』 『史料の整理と管理』 『古文書調査ハンドブック』</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">吉川弘文館 岩波書店 吉川弘文館</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>I. 古文書の読解—古文書を通して社会を読む—</p> <p>検地帳をとおして土地と階層をみる</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 宗門人別帳を通して家族構造を見る ② 免状と皆済目録をとおして年貢の変化を見る ③ 村明細帳をとおして村の全体を知る ⑤ 村の騒動や一揆の記録を通して社会の問題点と対立をみる。 <p>II. 古文書の整理</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 古文書整理の原則 ② 古文書整理の方法 ③ 目録作成 <p>☆なお冬休み中、古文書調査・整理をおこなう。大学博物館内あるいは羽曳野市内の旧庄屋家を予定</p>		